

～国立公園満喫プロジェクト関連事業～

自然資源を活かす  
エコツーリズム・インタープリテーションの人材育成支援事業

参加地域 募集要領

平成 29 年 10 月

環 境 省

(業務委託先 公益社団法人 日本環境教育フォーラム)

# 自然資源を活かす人材育成支援事業について

## 事業の目的

日本は豊かな自然や多様な文化の魅力にあふれています。

国を挙げて、地方創生やインバウンド対策に取り組んでいこうとしている今、こうした魅力を大切にしながら、上手に伝え、活かすことで、地域における体験の機会や質を向上させ、訪れる人や滞在時間を増やし、地域での雇用や活性化、持続可能な地域振興に結びつけていくことが、大いに望まれています。

こうしたことを、継続的な取組とし、着実に実現していくためには、日本の豊かな自然やそれらに裏打ちされた多様な文化の魅力や価値を上手に引き出し、伝え、豊かな体験を提供する人材を育成するとともに、そうした人材が活躍できる地域の仕組みや体制をしっかりと構築していくことが最も重要だと考えています。

そこで、本事業では、日本の国立公園が世界中の旅行者にとって憧れの旅先となるべく取り組みを進めている「国立公園満喫プロジェクト」の先導的役割を果たす8国立公園をはじめとした自然公園地域やエコツアーリズムに取り組む地域など、自然資源を活用して地域活性化に取り組む地域(以下、「自然地域」という。)を対象に、国内外のニーズも踏まえながら、ビジターセンターなどの拠点施設のスタッフや体験プログラム、エコツアーなどを企画・実施する事業者やガイド、コーディネーターなど、地域における持続可能な仕組み構築に向けたキーマンとなる人材の育成支援を行うものです。

なお、本事業では、継続的で効果的な取り組みとなるためには、地域全体での取り組みが欠かせないとの考えから、募集対象は、個人ではなく、「地域」を念頭とした複数の関係者からなる「チーム」といたします(詳細は2頁の(2)募集対象に記載)ので、ご留意ください。

## 「自然資源を活かす人材育成支援事業」事務局（問い合わせ・応募先）

**Aコース:**公益社団法人 日本環境教育フォーラム

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 5-38-5 日能研ビル 1階

担当:京極 E-mail:[kyogoku@jeef.or.jp](mailto:kyogoku@jeef.or.jp) 電話:03-5834-2897、FAX:03-5834-2898

ホームページ:<http://www.jeef.or.jp>

**Bコース:**NPO 法人 日本エコツアーリズム協会

〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-24-9 アイケイビル 3F

担当:坪根 E-mail:[tsubone@ecotourism.gr.jp](mailto:tsubone@ecotourism.gr.jp) 電話:03-5437-3080、FAX:03-5437-3081

ホームページ:<http://www.ecotourism.gr.jp>

## 事業実施主体

環境省 自然環境局 国立公園課 国立公園利用推進室

担当:加藤、小林、山本 電話:03-5521-8271(直通)

## 事業の内容

### (1) コースについて

本事業では、Aコース「拠点施設で働く人向け」と、Bコース「エコツアー事業者向け」の2コースを設定し、それぞれ、事前のアドバイザー派遣・自己研修・集合研修、さらにその後の地域へのアドバイザー派遣の課程を設定しています。(詳細は(3)を参照)

#### Aコース

主にビジターセンター、自然系博物館、自然学校の他、宿泊施設や観光施設の職員など、拠点施設で働く人を対象に、現場における解説業務(インタープリテーション)のスキルアップをはかり、人材育成の手法も学ぶコースとする。

#### Bコース

主に着地型ツアー事業者、アクティビティ事業者、エコツアー事業者、エコツアーガイド、地域コーディネーター等を対象とし、エコツーリズムを活かして地域を盛り上げるために、ツアーガイドや地域コーディネーターとしての能力向上を目的としたコースとする。

### (2) 募集対象について

- 募集対象は、個人ではなく、「地域」を念頭とした複数の関係者からなる「チーム」といたします。なお、本事業後も、継続的な取り組みを行っていただく地域を対象といたします。
- 「チーム」は、2～3人程度を想定しています。既にスタッフ及び事業者として働いている、もしくは働くことが決まっている者及び、うち1人は、行政や観光協会など、自然資源を活用した地域づくりにおいて事業者等をサポートする側の者であることを求めます(ただし、集合研修への参加については、サポート側からの参加が難しいやむを得ない事情がある場合には、地域全体で取り組む仕組みや体制が構築されている、もしくは構築に向けたビジョンや計画がある(集合研修後に、研修者が地域でその成果を活かせる体制や計画がある)ことが確認できれば、必須としないこととします)。

コース		Aコース	Bコース
事業終了後の 到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>○インタープリテーションの考え方を理解している</li> <li>○来訪者に対するコミュニケーションの基本的な考え方を理解している</li> <li>○人材育成のための集合研修などの設計のための考え方を理解している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域におけるガイド事業者の役割や、エコツーリズムを活かした地域づくりのための仕組みや体制づくりの基本的考え方、そのための地域コーディネーターの役割を理解している</li> <li>○エコツーリズムを核としたツアープログラムの企画・実施や事業経営していくための基本的な考え方を理解している</li> </ul>
募集 チーム 構成員	スタッフ 事業者側	主にビジターセンター、自然系博物館、自然学校、宿泊施設、観光施設の職員など、 <u>拠点施設で働いて(もしくは働くことが決まって)いて、主にお客様に対する解説・案内業務に従事している者で、更なる能力向上と地域全体での取り組みに意欲がある者</u>	主に着地型ツアー事業者、アクティビティ事業者、 <u>エコツアー事業者、エコツアーガイド、地域コーディネーター等としてプロ(もしくはプロを目指して)活動をしている者で、更なる能力向上と地域全体での取り組みに意欲がある者</u>
	サポート 側	+ 行政担当者(環境省自然保護官等含む)、観光協会、商工会の職員など	

※応募に当たっては、事前に、所管の自治体とご相談いただき、応募フォームは、応募チームの構成員でディスカッションした上で記載願います。また、国立公園内に該当する場合は、所管する環境省の出先機関(地方環境事務所、自然環境事務所、国立公園管理事務所、自然保護官事務所等)にも、事前にご一報いただくことをお勧め致します。

### (3) 事業の流れについて

事業の流れ	時期の目安
①参加チームの募集、受付	平成 29 年 11 月 7 日～12 月 5 日
↓ ①募集上限を超えた場合のみ書類審査(各コース 15 地域程度ずつ選定)	平成 29 年 12 月 8 日
②参加チーム(地域)への事前アドバイザー派遣	平成 29 年 12 月 11 日～12 月 22 日
↓ ③集合研修に進めるチーム(地域)の選定(各 10 地域程度)	平成 29 年 12 月 25 日
④事前自己研修、行動計画の作成	平成 29 年 12 月 26 日～1 月 12 日
④集合研修	平成 30 年 1 月 15～17 日
⑤行動計画の実践、レポート提出	平成 30 年 1 月 18 日～2 月 12 日
↓ ⑥2回目のアドバイザー派遣チーム(地域)の選定(各5地域程度)	平成 30 年 2 月 16 日
⑥2回目のアドバイザー派遣の実施、レポート提出	平成 30 年 2 月 19 日～3 月 9 日

#### ①参加チームの募集、受付

参加チームを、募集対象に沿って、A・B 各コース 15 チーム程度ずつ、両コース合計 30 チーム程度募集します。応募フォームに沿って内容を記載の上、期日までに各コースの応募先に、応募をお願いします。不明な点等は、各コースの問い合わせ先まで、お気軽にお問い合わせください。

※応募チーム多数の場合は、期日までに応募いただいたチームについて書類審査(審査項目は後述)の上、募集上限程度に調整させていただきます。

※なお、その際、同一地域から同一コースに複数の応募をいただいた場合は、1チームにまとまっているよう調整をお願いする場合や、応募フォームの記載内容によっては、別のコースをお勧めさせていただく場合がございますので、あらかじめ、ご了承ください。

#### ②参加チーム(地域)への事前アドバイザー派遣

参加チーム(地域)へアドバイザーを1名派遣(2泊3日程度)し、地域の課題把握や整理を行い、課題解決に向けたアドバイスを行います。

なお、アドバイザーは、講師陣(後述)を中心に、各地域の課題に応じて調整の上、派遣することを想定しています。

※事前アドバイザーを派遣する際は、各コースの事務局より、応募フォームの主たる担当者等に連絡し、記載内容の詳細なヒアリングや、必要に応じて、参加チームのほか、地域の関係者の参集や、現地のご案内等の調整をさせていただきます。

#### ③集合研修に参加するチーム(地域)の選定

事前アドバイザー派遣を行ったチーム(地域)の中から、集合研修に進めるチーム(地域)を各コース 10 チーム(地域)程度ずつ、合計 20 チーム(地域)程度選定します。

#### ④事前自己研修、集合研修の実施

集合研修に参加するチーム(地域)からのチーム構成員(以下、「研修生」という。)には、事務局から事前送付する教材等をもとに、集合研修に向けての自己研修及びチーム(地域)として、課題を解決するための今後の具体的な行動の検討を実施していただいた上で、2泊3日の集合研修に参加いただきます。

集合研修では、各種講義の他に、講師や他の研修生と共にワークショップや具体的な行動をブラッシュアップする(行動計画づくり)ためのディスカッションなどを行い、最後に行動計画の発表を行っていただくことを予定しています。

#### ⑤行動計画の実践

集合研修後、各チーム(地域)においてブラッシュアップした行動計画を実践していただき、実践してみた上での感想や課題、その上でどうしたいか等をレポートとして作成し提出していただきます。

#### ⑥2回目のアドバイザー派遣の実施

集合研修の参加状況や、ブラッシュアップした行動計画、実践した上でのレポート等を踏まえ、各コース5チーム(地域)程度ずつ、合計10チーム(地域)程度を選定し、研修生や地域の更なるレベルアップが図れるよう、2回目のアドバイザー派遣を行います。2回目のアドバイザー派遣を行ったチーム(地域)には、その後の取り組み状況等も踏まえ、2回目のレポート提出をしていただきます。

### (4) 審査について((3)表の網掛け部分)

#### ア:審査・選定方法

- ①募集上限を超えた場合のみ書類審査(各コース15地域程度ずつ選定)  
→募集上限を超えてしまった場合のみ、事務局において、応募フォームの記載内容を踏まえ書類審査の上、選定します。
- ③集合研修に進めるチーム(地域)の選定(各10地域程度)  
→審査会において、派遣したアドバイザーの意見も聞きながら選定します。
- ⑥2回目のアドバイザー派遣チーム(地域)の選定(各5地域程度)  
→審査会において、集合研修の参加状況や、ブラッシュアップした行動計画、実践した上でのレポート内容等を踏まえ、選定します。

#### イ:審査・選定基準

各チーム(地域)の取り組み内容や取り組み状況、行動計画等について、継続性、具体性、連携性、発展性、将来性、先進性があるかなどの観点により審査・選定を行います。

### (5) 事業内容について

#### ●アドバイザー派遣について

##### ○派遣地域とアドバイザーのマッチング

派遣地域について、応募フォームの記載内容や、必要に応じて事務局からの問い合わせなどにより、地域にふさわしいアドバイザーのマッチングを行います。

##### ○派遣にかかる経費について

派遣するアドバイザーの旅費(現地までの交通費、現地での宿泊費。2泊3日分)及び謝金については、環境省(事務局)が負担します。その他の費用(現地での移動費用、施設利用料、入場料、その他アドバイスの実施にあたって現地で発生した費用等)については、取組地域にて負担願います。

##### ○その他

アドバイザー派遣の実施にあたっては、基本的に環境省本省及び事務局は同行しません。派遣地域においては、参加チームを中心に、取り組み地域側が、アドバイザーの現地での移動、説明等の同行の対応をお願いします。

## ●事前自己研修、集合研修について

○詳細は集合研修参加チーム構成員(研修生)に後日通知します。

○集合研修参加にかかる経費について

集合研修参加自体にかかる費用は無料ですが、研修生の旅費(現地までの交通費、現地での宿泊費)及び、その他の実費(懇親会費等)については、研修生個人もしくは取組地域側の負担とします。

○研修会場について

日 時:平成 30 年 1 月 15 日(月)～17 日(水) の2泊3日

場 所:日光国立公園 那須高原ビジターセンター(栃木県那須郡那須町湯本 207-2)

那須平成の森フィールドセンター(栃木県那須郡那須町高久丙 3254)

オオシマフォーラム(栃木県那須郡那須町湯本 205)

現地での宿泊費、食費、懇親会費、入湯税、保険等の実費:20,000 円程度

集合・解散:現地(オオシマフォーラム)

集合時間:1 月 15 日(月)12:30、解散時間:1 月 17 日(水)15:00

又は、送迎バス利用者は東北新幹線・那須塩原駅前

集合時間:1 月 15 日(月)11:30、解散時間:1 月 17 日(水)16:00

## 応募方法について

### (1) 応募にかかる書類について

- 応募フォームの様式は、環境省ホームページ、または応募先の事務局(1頁記載)のホームページからダウンロードできます。
- 必要事項を記入し、応募期間内に、電子メールまたは郵送で、応募先の事務局(1頁記載)まで提出してください。
- 応募に当たっては、事前に、所管の自治体とご相談いただき、応募フォームは、応募チームの構成員でディスカッションした上で記載願います。また、記載内容は、後に、他の参加チームとも共有することを前提に記載願います。
- 国立公園内に該当する場合は、所管する環境省の出先機関(地方環境事務所、自然環境事務所、国立公園管理事務所、自然保護官事務所等)にも、事前にご一報いただくことをお勧め致します。
- 提出された応募書類は本事業に関する目的以外には使用しません。お預かりした個人情報、「環境省所管事業分野における個人情報の保護に関するガイドライン」にしたがい管理します。また、応募書類は返却しません。
- 応募書類は日本語でご記入ください。なお、応募フォームの様式を変更せずにご記入ください(記載内容に応じて、枠を広げることは可とします。)

### (2) 応募期間について

平成 29 年 11 月 7 日(火)～12 月 5 日(火)必着

## 研修カリキュラム ※講師・講義タイトルは、変更となる場合があります。

### Aコース、Bコース共通

日本の自然環境の価値とブランディングについて	環境省
日本の自然環境の価値と意味	田中 伸彦
エコツーリズム概論／エコツーリズムの経済学	海津 ゆりえ／真板 昭夫
自然保護・モニタリングについて	横山 隆一
地域挙げての観光振興のきっかけづくり	山田 桂一郎
インタープリテーションの様々なスタイル、インタープリテーション計画	西村 仁志／古瀬 浩史
関連法規からみたリスクマネジメント	三浦 雅生
ユニバーサル対応	那須平成の森
インバウンド対応	古屋 絢子
海外から見た日本の自然の市場性	楠部 真也

### Aコース

インタープリテーションの様々な道具や手法の紹介	長谷川 幸子／古瀬 浩史
那須平成の森の IP 計画の紹介と実際の IP(パーソナル&ノンパーソナル)の紹介	那須平成の森／古瀬 浩史
インタープリテーション計画	古瀬 浩史
ワークショップ: インタープリテーション計画を書いてみる	古瀬 浩史
インタープリテーションのプログラム・デザイン手法	川嶋 直
ワークショップ: 自らのプログラムを再デザインする	川嶋 直
人材育成の設計手法	川嶋 直
ワークショップ: 自分の地域の人材育成計画を考えてみる	川嶋 直／古瀬 浩史／山崎 宏
ワークショップ: 地域でのパートナーシップ・連携を考える	川嶋 直／山崎 宏

### Bコース

地域におけるエコツアーガイドの役割	松本 毅
地域内の協力体制づくりにおける地域コーディネーターの役割	江崎 貴久
ワークショップ: 各地域の仕組み・体制づくりの課題解決に向けて(仮)	Bコース全講師
マーケティング・販売戦略について	府川 尚弘
事業経営と地域外とのパートナーシップの構築	松田 光輝
ワークショップ: 各地域の商品化・事業化の課題解決に向けて(仮)	Bコース全講師
ガイド手法とプログラムづくり	安類 智仁
リスクマネジメント	松田 光輝
ワークショップ: 各地域のより良いプログラムづくりに向けて(仮)	Bコース全講師

※ワークショップは、参加者の課題や行動計画等にあわせて内容を変更いたします

## 講師陣 (50音順)

### Aコース、Bコース共通

海津 ゆりえ 氏	文教大学国際学部国際観光学科 教授
楠部 真也 氏	(株)ピッキオ 取締役
田中 伸彦 氏	東海大学観光学部観光学科 教授
西村 仁志 氏	広島修道大学 教授／(公社)日本環境教育フォーラム 理事
古瀬 浩史 氏	帝京科学大学 教授／(一社)日本インタープリテーション協会 代表理事
古屋 絢子 氏	通訳案内士／神田外語学院 非常勤講師
真板 昭夫 氏	北海道大学 観光学高等研究センター 特任教授
三浦 雅生 氏	五木田・三浦法律事務所 弁護士
山田 桂一郎 氏	JTIC. SWISS 代表
横山 隆一 氏	(公財) 日本自然保護協会 参与

### Aコース

川嶋 直 氏	(公社)日本環境教育フォーラム理事長
長谷川 幸子 氏	(一社)日本インタープリテーション協会 理事
山崎 宏 氏	NPO 法人 ホールアース研究所 代表理事

### Bコース

安類 智仁 氏	(特非)片品・山と森の学校 副代表
江崎 貴久 氏	(有)オズ 海島遊民くらぶ 代表
府川 尚弘氏	静岡ツーリズムビューロー DMO ディレクター
松田 光輝 氏	(株)知床ネイチャーオフィス 代表
松本 毅 氏	(有)屋久島野外活動総合センター 代表

研修スケジュール（予定） ※講師・講義タイトルは変更となる場合があります。

1日目 AB共通

時刻	内容	講義のねらいや意味など	担当
12:30	受付		
13:00	開会		
13:20	アイスペイク	会場の固い空気を和らげる時間。おそらく60名ほど（あるいは70名）となるので、『旗揚げアンケート』等で属性や参加動機などを俯瞰する簡単なアイスペイクをする。	
13:35	講義「日本の自然環境の価値とブランディングについて」	世界に対する日本の自然の価値付けや果たせる役割、そのストーリーなどを総論し、日本におけるガイドやインタープリターが果たす役割や、カリキュラム全体を俯瞰して、その学ぶ意味合いを確認する。	環境省
14:25	講義「地域挙げての観光振興のきっかけづくり（仮）」	エコツーリズムを活用した観光振興の有効性。地域を挙げての観光振興への指針。	山田 桂一郎
15:10	講義「エコツーリズム概論／エコツーリズムの経済学」	導入、エコツーリズムを活用した事例、日本型エコツーリズムについて、現在の世界の潮流。エコツーリズムによる観光振興、地域振興、マクロの視点での経済波及効果について、世界の事例を踏まえて。	海津ゆりえ／真板昭夫
16:30	「自然保護・モニタリングについて」	自然保護とモニタリングについて。エコツーリズムが自然保護にどういった役割を果たすか、果たすべきか。	横山 隆一
17:35	講義「インタープリテーションの様々なスタイル（含むノンパーソナルインタープリテーション）／インタープリテーション計画」	施設内でのオリエンテーション／様々なプレゼンテーション手法／参加型の工夫／展示・セルフガイド・路傍展示などの紹介をする。インタープリテーション計画の概要紹介もおこなう。	西村仁志／古瀬告史
18:25	今日一日のふりかえり ふりかえり用紙への記入（質問も）→少人数で共有	今日一日の研修をふりかえり、学んだこと、分かりにくかったこと、今後やってみたいことなどを言語化する（個人）→チーム内（あるいはチームを超えたグループ内）で共有する。	
19:05	夕食&懇親会（含む参加者自己紹介：チームごと）		

2日目 Aコース

時刻	内容	講義のねらいや意味など	担当
8:30	那須平成の森へ移動		
9:10	講義「インタープリテーションの様々な道具や手法の紹介」	インタープリテーションの様々な道具や手法を紹介。インバウンド対応のための道具についても触れる。	長谷川幸子、古瀬浩史
9:50	見学&参加者の道具の紹介	講師が用意した道具の他に、参加者にも普段自分が使っているインタープリテーション（ガイド）の道具を持参していただきシェアする。	長谷川幸子、古瀬浩史
10:45	講義「那須平成の森のIP計画の紹介と実際のIP（パーソナル&ノンパーソナル）の紹介」	インタープリテーション計画が実際の現場にどのように反映されているのかを紹介する。	那須平成の森、古瀬浩史
11:15	那須平成の森フィールドセンターの展示見学&遠路散策	フィールドセンターのスタッフ対応	
12:45	那須高原ビジターセンターへ移動		
13:10	講義「インタープリテーション計画」	インタープリテーション計画の概要とその重要性を理解し、各地域で計画を作る際のポイントを伝え、次の時間のワークショップに繋げる。	古瀬浩史
13:30	ワークショップ「IP計画を書いてみる」	各チームでインタープリテーション計画のイメージを書く→チーム間で共有する。	古瀬浩史
14:10	講義「インタープリテーションのプログラム・デザイン手法」	参加者を迎えて「こんにちは」から「ありがとうございました」までの間をどのようにデザインするかを学ぶ。プログラム・デザインとは「時間設計・空間設計・関係性設計」のこと。	川嶋直
14:50	ワークショップ「自らのプログラムを再デザインする」	講義を受けて自らのプログラムを書き直してみる（個人作業）→グループでシェアする。	川嶋直
15:40	講義「人材育成の設計手法」	インタープリター（ガイド）が育つための様々な可能性を紹介/同時に集合研修の設計手法も紹介する。	川嶋直
16:10	ワークショップ「自分の地域の人材育成計画を考えてみる」	各地域で具体的にどのような人材育成に向けた行動計画を描けるかをチーム毎に考える→全体で共有→講師からコメント。	川嶋直、古瀬浩史、山崎宏
17:05	ワークショップ「地域でのパートナーシップ・連携を考える」	地域で連携できる関係者（団体）を書き出して、具体的にどのような連携の可能性があるのか考えてみる（個人作業→チーム共有→全体共有）等。	川嶋直、山崎宏
17:55	今日一日のふりかえり ふりかえり用紙への記入（質問も）→少人数で共有	今日一日の研修をふりかえり、学んだこと、分かりにくかったこと、今後やってみたいことなどを言語化する（個人）→チーム内（あるいはチームを超えたグループ内）で共有する。	長谷川幸子
18:35	オオシマフォーラムへ移動		
19:00	夕食		
20:00	終了（有志で懇親会）		

## 2日目 Bコース

時刻	内容	講義のねらいや意味など	担当
9:00	講義「地域におけるエコツアーガイドの役割」	エコツアーガイドが地域で果たすべき役割、可能性 (地域の顔、モニタリングへの寄与、コーディネーターの視点)	松本 毅
9:50	講義「地域内の協力体制づくりにおける地域コーディネーターの役割」	行政、漁協、民間事業者などの関係者を巻き込んだ観光振興の取組み 方法論、地域内の合意形成について	江崎 貴久
10:45	ワークショップ：各地域の仕組み・体制づくりの課題解決に向けて(仮)	上記2講義に関するふりかえりを行いながら、 各地域からの課題共有とその解決に向けたディスカッション	Bコース全講師
12:45	講義「マーケティング・販売戦略について」	マーケティング・販売戦略について概論するとともに、訪日外国人観光客誘 客の視点からの戦略(情報分析、事業への戦略だて)について理解する。	府川 尚弘
13:35	講義「事業経営と関係者とのパートナーシップの構築」	事業運営に係る収益確保の仕方、商品単価の設定、経営戦略、旅行会社との ビジネスパートナーシップ、契約形態、ツアー催行に当たっての実際的な考 え方、動き方を理解する。	松田 光輝
14:25	ワークショップ：各地域の商品化・事業化の課題解決に向けて(仮)	上記2講義に関するふりかえりを行いながら、 各地域からの課題共有とその解決に向けたディスカッション	Bコース全講師
15:35	講義「ガイド手法とプログラムづくり」	エコツアーガイドとしての解説手法、プログラムづくりの考え方を理解す る。	安類 智仁
16:25	講義「リスクマネジメント」	事業運営に必要なリスクマネジメントの考え方について理解する。	松田 光輝
17:15	ワークショップ：各地域のより良いプログラムづくりに向けて(仮)	上記2講義に関するふりかえりを行いながら、 各地域からの課題共有とその解決に向けたディスカッション	Bコース全講師
18:25	今日一日のふりかえり	各地の先進事例共有や課題と取組の抽出、意見交換	全講師
19:00	夕食		
20:00	終了(有志で懇親会)		

## 3日目 AB共通

時刻	内容	講義のねらいや意味など	担当
8:45	講義「ユニバーサル対応」	那須平成の森による「手話によるガイドプログラム」「大学病院とのコラ ボ」。間接的な事例として「ミュージックウォーク」などの事例紹介。	那須平成の森
9:35	講義「インバウンド対応」	現場で外国人に相対するガイドのノウハウ、ツアー催行の実際	古屋絢子
9:55	講義「海外から見た日本の自然の市場性」	訪日外国人観光客の地域や客層、動向などを踏まえ、世界の旅行市場にお ける「日本の自然資源」の訴求力と、特徴・優位性について指摘する。	楠部真也
11:00	行動計画のブラッシュアップ&個別相談会 (*12~13時は昼食)	各チームが集合研修終了後の行動計画をブラッシュアップする。同時に講 師が個別相談テーブルを用意しチーム毎に個別相談に行く。	全講師
14:10	研修全体のふりかえり		
14:45	閉会式		

平成 29 年度 自然資源を活かすエコツーリズム・インタープリテーションの人材育成支援事業  
参加地域募集に関する質問と回答

Q: 昨年まで行われていた「エコツーリズムガイド等養成研修」及び「エコツーリズム推進アドバイザー派遣事業」と関係があるのでしょうか？

A: 昨年まで行われていた両事業の後継事業となります。本事業の事前アドバイザー派遣は、昨年までの「エコツーリズム推進アドバイザー派遣事業」に相当し、本事業の集合研修は、昨年までの「エコツーリズムガイド等養成研修」のスキルアップ編に相当しワークショップを充実させたものとなります。

Q: 主な活動フィールドが国立公園ではないのですが応募は可能でしょうか？

国立公園満喫プロジェクトの対象国立公園ではないのですが応募は可能でしょうか？

A: いずれも可能です。自然資源(里地・里山などの自然を含む)を活用した地域振興、観光振興を目指す地域であれば、どこでも対象となります。

Q: 募集対象となる「地域」とは、どのような範囲でしょうか？

A: 県境を越えた国立公園全体～ひとつの集落まで、およそ「地域」と呼べる単位といたします。

Q: フリーで自然のガイドをしています、個人での応募は可能でしょうか？

A: 事業全体では、アドバイザー派遣の地域側での受入や、地域の課題解決のための行動計画の作成等を行いますので、応募は必ず、地域の行政担当者に相談のうえ、サポート側の関係者を含め2～3名程度での応募をお願いします。ただし、集合研修に限っては、地域全体で取り組む仕組みや体制が構築されている、もしくは構築に向けたビジョンや計画がある(集合研修後に、研修者が地域でその成果を活かせる体制や計画がある)地域については、やむを得ない事情がある場合は、サポート側の参加を必須としない場合もございます。

Q: 自分たちの活動(事業)をサポートしてくれる行政の部署、担当者などはどのように見つければよいのでしょうか？

A: 応募しようとする者の活動する自治体の地域振興・観光・産業・環境部署、最寄りの自然保護官事務所などの担当者などに協力を打診してみてください。観光協会や商工会の方がサポート側のメンバーとして参加されても良いです。(募集要領2ページ参照)

Q: 観光課の職員です。一緒に参加したいガイド等が10名ほどいるのですが参加可能でしょうか？

A: なるべく多くの地域からの参加を受け入れたいので、原則としてスタッフ・事業者側の方+サポート側の方=合計2～3名のチームでの応募をお願いします。若干名であれば、全体で受入人数が決まった後に余裕がある場合にのみ受入調整を行うことを前提に、別途、ご相談ください。

Q: 集合研修前の事前アドバイザー派遣は、応募すれば必ずアドバイザーに来ていただけるということではないのでしょうか？

A: 募集上限(A・B各コース15チーム(地域)程度ずつ、両コース合計30チーム(地域)程度)を超えてしまった場合のみ、書類選考があります。(募集要領4ページ参照)

Q: サポート側のメンバーは、市町村ではなく都道府県の方でもよいですか？

A: サポート側のメンバーとしては、都道府県でも構いません。なお、その場合は、都道府県や市町村との関係性などがわかる体制図やビジョン等を参考にお示しいただければと思います。

Q:同一地域からAコースとBコース両方に応募することは可能ですか？

A:チームを構成するメンバーが異なる2チーム(例えば、Aコースでスタッフ1人行政1人、Bコースで事業者2人観光協会1人)で応募していただく場合には可能です。

Q:Aコース、Bコースそれぞれ対象となるメンバーで構成されるチーム(例えば、ビジターセンタースタッフ1人、エコツアー事業者1人、行政1人の3人)で参加して、集合研修においてAコースとBコースに分かれて参加することはできますか？

A:カリキュラムの中で、チーム毎に検討いただく場面等があり、参加者が1人になってしまうことは避けたく、原則は、Aコース、Bコースそれぞれでの応募をお願いします(例えば、上記チームにサポート側のメンバーが1人増えれば、Aコース(2人)とBコース(2人)に分かれての参加が可能となります)。

なお、上記のような3人チームで、AコースかBコースかを選んで、どちらかのコースに全員で参加いただくことは可能です。

Q:A、Bどちらのコースに応募して良いか迷っているのだが・・・

A:事前に、応募の目的や地域の課題等を整理いただき、それぞれの事務局にご相談いただくことをお勧めいたします。なお、応募フォームへの記載内容等を確認の上、よりふさわしいコースを、事務局からお勧めさせていただく場合もございます。